

ウィルスの輸血後感染症について

1. はじめに

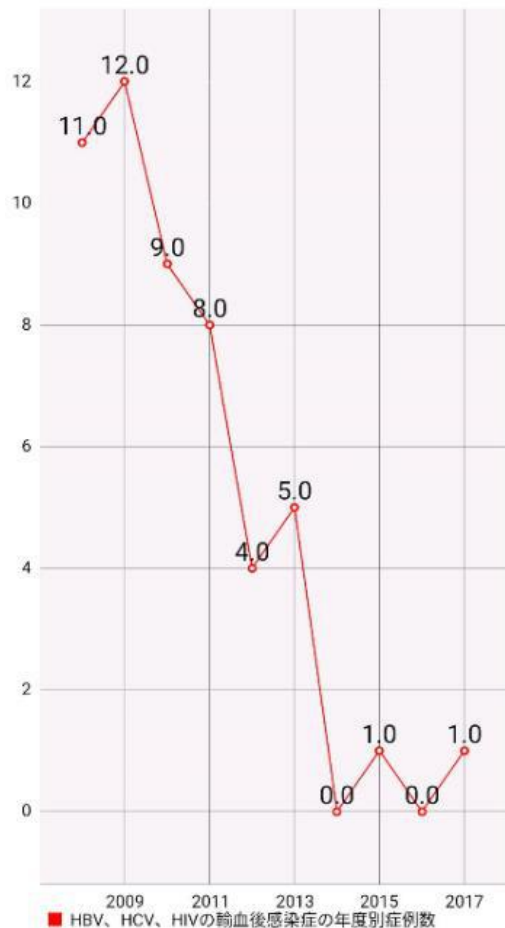
皆さんは献血に行かれたことがあるでしょうか。白血病などに罹ってしまうと輸血がなくては死に至ってしまうこともあります。しかし、その輸血によって感染症が伝染ってしまう「輸血後感染症」というものが存在するのをご存じでしょうか。輸血後感染症とはどんなものなのか、その対処がどのように行われているのかについて簡単にですが書いていこうと思います。

2. 輸血について

現在、日本では年間 100 万人を超える数の患者に輸血が実施されています。また、血液は長期保存をすることが出来ないため、毎日約 1 万 3 千人の献血が必要とされています。話は逸れますが今年世間を騒がせた新型コロナウイルスの流行に伴い政府が外出自粛を広く求めた影響で、献血をする人が大幅に減少し、輸血用の血液が不足するという深刻な事態に陥りました。

3. 輸血後感染症とは

献血をする際には必ず、献血者の血液中にウィルスが検出されないかどうか検査が行われます。特に感染力が強いとされる B 型肝炎ウィルス(HBV)や C 型肝炎ウィルス(HCV)、ヒト免疫不全ウィルス(HIV)の 3 つに関しては現在、核酸増幅検査(NAT)と呼ばれる精密な検査がされています。しかし「ウィンドウピリオド」と呼ばれる、ウィルスに感染しているが検査では検出することが出来ない期間が存在します。先ほどの NAT の導入によって大幅にその期間は短縮されたのですが、0 になったという訳ではありません。そのようにして検査で検出されことなくウィルスが血液中に紛れ



込んだまま輸血されると、患者は「輸血後感染症」を罹患してしまうという訳です。

4. NAT の普及と輸血

しかし、輸血後感染症になってしまう患者は決して多くはありません。HBV、HCV、HIV の輸血後感染症の年度別症例数(前ページグラフ)によれば、症例数の減少は目に見えて明らかなです。また献血ルームや献血バスといった施設では、性交渉を半年以内に行う等のウィルス感染の不安があると献血が出来ないようになっているなど、万が一に備えた対策も講じられています。輸血は「病気を伝染させてしまう行為」ではなく、あくまで「病気で困っている患者を救う行為」である、ということをしかりと頭に入れていて欲しいと思います。

5. おわりに

最近若者の献血離れが進行しています。献血に行く若者の数は年々減少しており、現在では 10~30 代の若者の献血者数は総献血者数の半分にも満たしていません。このペースで減っていくといずれ需要に追い付かなくなることが予想されています。献血を受ける際、病院では料金がかかってしまう血液検査を無料ですることが出来るなどのメリットもあります。献血は未成年でも出来る非常にハードルの低いものです。献血を必要とする人々のため、少しの勇気を出して献血のできる施設に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

6. 参考文献

日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp/>

厚生労働省公式 <https://www.mhlw.go.jp/index.html>

日本輸血・細胞治療学会 <http://yuketsu.jstmct.or.jp/>